

令和８年度第２回宇治市農業振興協議会 会議録

○開催日時：令和８年８月２８日（金）午前１０時～午前１１時３０分

○会場：宇治市役所 ８階 大会議室

○出席者：１２名（５名欠席）

○傍聴者：０名

○報道関係者：１名

<次第>

- １．委員の委嘱
- ２．会長、副会長選出
- ３．農業振興施策の取組状況について

【会議内容】

1. 委員の委嘱

任期内で交代された委員には机上交付で委嘱状を交付
(任期：令和8年8月28日～令和11年7月31日)

過半数の委員の出席により会議が成立
傍聴を認めることにより会議を公開

2. 会長、副会長の選出

委員より会長に中林和夫氏、副会長に中西秀友氏の推薦があり、異議なしで決定

3. 農業振興施策の取組状況について

事務局（宇治市）より事業概要を説明
委員による協議、事務局との質疑応答

【質疑応答・意見など】

3. 農業振興施策の取組状況について

○全体について 各委員より

委員：農業生産性等向上支援事業や低利融資事業は、他市町村からも宇治市は対応が早いと評価されている。融資額等の拡充にも期待しており、各制度を積極的に活用してほしい。

委員：少雨と高温が続き、必要な時期に雨が降らず、降るときは一気に降る。米価の先行きにも不安があり、良質米の生産は難しい。そんな中、ジャンボタニシ対策や良質米生産支援に感謝している。スマート農業や生産性向上支援を活用し、省力化しながら生産を続けたい。

委員：茶について手厚い支援を受けていることに感謝する。新規就農者確保事業の対象者2名は、令和8年度の新規採択か継続支援か。また、作目は何か。

事務局：令和8年度は新規採択者はなく、継続支援の2名で、作目はいずれも茶である。

委員：スマート農業等導入チャレンジ事業で導入する農業用ドローンは、どの作物に使用する予定か。

事務局：水稻及びトウモロコシへの使用を予定している。

委員：茶でもドローン活用の事例があるため、実機を見られる見学会を開催してほしい。

委員：年々の高温で夏場の野菜生産が難しくなっている。機械・資材価格が上昇する一方、補助上限20万円は変わっておらず、10年前の20万円と現在の20万円では価値が違う。上限額の増額を検討してほしい。6次産業化については、企業側と話をしているが、互いに状況の認識にずれがある。

事務局：市内に進出予定の食品加工事業者と、市内産野菜の加工・活用について協議している。農業者と事業者双方のニーズを整理し、市内産農産物のPRにつなげる取組を検討する。

委員：花きの単価は約20年前から大きく変わらない一方、農薬や農業機械は値上がりしている。低利融資や農業予算の拡充はありがたい。温暖化で小菊の古株が枯れ、遮光や水やりの回数を増やす必要が生じており、生産環境は厳しい。

委員：林業でも高齢化と後継者不足が進み、森林組合は危機的な状況にある。森林環境譲与税を財源とする森林経営管理制度を活用し、京都府や宇治市と連携して森林の荒廃防止に協力したい。

委員：観光農園への来訪車両による管理道路の通行について、安全面への懸念がある。開設前に関係者調整を行う仕組みはないか。

事務局：現行制度では一律の事前確認は困難であるが、土地改良区及び関係部署と情報共有し、可能な対策を検討する。

委員：宇治市は補助制度が充実している一方、茶以外に「これが宇治」と言える特徴的な農産物が乏しい。代表品目を育成してPRする施策が必要である。南部市場には香港、台湾、シンガポール等への京野菜輸出ルートがあり、その活用も検討してほしい。

委 員：自身は、収穫や草取りを手伝って農作業の大変さを実感し、生産者への感謝を深めた。

委 員：市内には常設の直売所がなく、消費者から宇治市産野菜をどこで買えるのかと聞かれる。宇治市産農産物シールも実際に見たことがない。どこで販売される商品に使われているのか。

事務局：スーパーやイベント等で販売する野菜、餅などに使われている。希望する農家へ配布する方式である。

事務局：約3年間で累計約20万枚を作成したが、全ての商品に貼付されているわけではなく、十分に浸透していない。周知をさらに進める必要がある。

委 員：茶農家として各種支援に感謝している。農業資材価格の高騰や酷暑への支援を継続してほしい。茶摘み従事者の高齢化が進み、来年から難しいという方も増えているため、お茶摘みバンク等を通じた人材確保と受入側農家の対応改善にも支援をお願いしたい。

副会長：副会長を引き受けた以上、生産者の声を受け止め、改めて勉強し、皆様の意向に沿えるよう努力したい。

会 長：JAから市長へ、農業資材・農機具価格の高騰への支援や槇島地区の用排水整備の遅れ等について要望書を提出した。内容をJA内でも閲覧・周知できるようにする。各種補助を活用し、良質な農産物を生産してほしい。事務局には、本日の意見を今後の施策の参考にするよう求める。

以上